

## 目の前の一走、一走を大切に走りたい



たちかわ競輪 増茂 るこさん  
7月で10年目を迎えるガールズケイリン選手。立川競輪場をホームに活躍。最近の趣味はアロマ。

—コロナ禍での練習にはどのような苦勞がありましたか。

バンクが使えない時期には、奥多摩の街道まで一人で練習に行くなど、練習場所を確保するのに苦勞しました。また、目標にしていたレースが急に中止になって、気持ちが切れてしまいそうなきももありました。レースが再開して、久しぶりに観客の皆さんの前で走れたときには、声援がひと際大きく聞こえて感動しましたね。



レースで先頭を走る増茂選手

—コロナ禍で始めた新しい取り組みはありますか。

レースやイベントができなくなり、「この先どうなるだろう」という漠然とした不安がありました。そんな中で、「ファンの方へ向けた動画を作らないか」というお話があり、手洗いやうがい啓発する動画に出演しました。ほかにも、トレーニングやストレッチ法など、選手のおちゃめな一面が見られる動画をアップしていますので、ぜひご覧ください。



動画「たちかわ競輪 地元選手のぶっちゃけ話」

—今後の抱負と、地元・立川の皆さんに一言お願いします。

「特定のレースで優勝したい」というよりは、「目の前の一走、一走を大切に走る」ことを目標にしています。こんな時期だからこそ、レースに出られることに感謝して、練習の成果を発揮できるように頑張りたいです。競輪というとギャンブルというイメージがあるかもしれませんが、ガールズは初心者の方にも分かりやすいので、スポーツ感覚で楽しんでいただけると嬉しいです。場内のB級グルメを食べるついでに、気軽に遊びに来てくださいな。

## 家事・育児のスキルを上げるチャンス



多摩信用金庫 小倉 航さん  
入社9年目。現在は人事交流で立川市役所に向中。1歳の娘と遊ぶのが何よりの癒やしの時間。

—コロナ禍で仕事にどのような変化がありましたか。

支店で融資の担当をしていた際には、収入が減少した中小企業の方からのご相談が急増しました。融資は待たなしの仕事なので、少しでも早くお客様に資金を提供できるよう、日々の業務にあたっていました。テレワークの日は電話やメールが中心でしたが、自宅に集中できる環境が整っていなかったため、正直最初はかなり戸惑いました。

—仕事における変化の中で、良かったことは何ですか。

今年の1月～3月は本部で創業向けセミナーの担当をしていたのですが、急ぎょオンラインに変更することになりました。機材の準備など、慣れない部分もありましたが、結果的に会場で行うよりも多くの方に参加していただきました。また、社内の資料のペーパーレス化も進んできています。こんなときだからこそ、業務の見直しや効率化のきっかけにできたらいいと思います。



オンラインセミナーの準備の様子

—夫婦の家事・育児の分担に変化はありましたか。

家事や育児はこれまででも分担してやっていましたが、保育園の送迎や料理をする機会が増えて、今まで以上に妻への感謝の気持ちが強くなりました。家事も育児も仕事もそれぞれの大変さがあるので、「ありがとう」とか「大変だね」とか、そういう感謝や共感する気持ちを言葉で伝えるように心掛けています。コロナは、自分の役割を見直したり、家事のスキルを上げたりするチャンスかもしれませんね。



娘と公園で遊ぶ小倉さん

# コロナで変わった 私たちの“いま”と“これから”

新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活は一変しました。さまざまな場面で行動が制限され、ライフスタイルや価値観にも変化が生じています。そんな「新しい日常」の中でも、工夫や努力を重ね、前向きに活躍している4人の方に、お話を聞きました。

◎広報課・内線2745

## 「観い」を先に届けるお店づくり

—お店の魅力と感染症対策について教えてください。

当店名物の「牛タンしゃぶしゃぶ」をはじめ、厳選した松阪牛を使用した料理が自慢です。店内は全席が完全個室なので、ゆったりとくつろいでいただけます。コロナ禍でも安心してお食事を楽しんでいただけるよう、アクリル板の設置や、除菌・換気なども徹底し、都の「コロナ対策リーダー」にも登録しました。



消毒や検温などの万全な感染症対策

—コロナ禍で営業スタイルに変化はありましたか。

もともとは午後5時以降のみの営業でしたが、昨年5月の緊急事態宣言を受けて、テイクアウトを始めました。一からメニューを考案したり、チラシやPOPを作ったりと、すべてが手探りだったので最初は大変でしたが、「テイクアウトがきっかけでお店を利用した」という方も多くて励みになっています。一番人気は「和牛霜降りすき焼き重」で、外出自粛やテレワークの際のちょっとした贅沢におすすめです。



人気メニュー 松阪牛のローストビーフ寿司

—これからのお店作りで目指していくことは何ですか。

より多くの方にお店を知っていただけるよう、SNSでお店の情報発信に力を入れたり、今後はランチ営業も検討しています。店名の「観い」は、「観い」という言葉が由来です。頭で考える「思い」ではなく、心で感じる「観い」をお客様にお伝えする、そんなあたたかいお店づくりを目指していきたいです。



しゃぶしゃぶ 観い 榎戸 正知さん  
「立川の輝く個店」を受賞した料理店・しゃぶしゃぶ観いの店長。最近ハマっていることは筋トレ。

## 日々の小さな幸せを見つける

—大学生活について教えてください。

昨年は対面形式の授業はほとんどなく、オンラインでの授業や課題提出などが中心でした。オンラインだとコミュニケーションが取りづらい面もありますが、分からなかったところは課題を提出する際にまとめて質問するなど、工夫して勉強しています。不便なことも多いですが、自分の好きなときに受講できるのはオンラインの良いところだと思います。



自宅で講義を受ける川井さん

—交友関係にコロナの影響はありましたか。

友達と会う機会は減りましたが、代わりにオンラインコミュニティに入ってみました。そこで知り合った友達と、電話をしながら地域のごみ拾いをする活動をしています。同じことをしていると、離れていてもつながっている感じが楽しいです。コロナがなければ知り合えなかった人に出会うことができ、興味や世界が広がるきっかけになったと思います。



集めたごみで作ったハート型のアート

—コロナ禍の生活を楽しむ工夫を教えてください。

特別なことはしていませんが、日々の小さな幸せを見つけるようにしています。アイスがおいしかったとか、家族みんなでテニスをしたとか…。コロナがきっかけで、当たり前の生活の中のちょっとした楽しみに気付くことができました。思い描いていたキャンパスライフとは違いましたが、興味のあること(今は障害のある子どもや不登校の子ども、社会的養護に関すること)を勉強して、自分にできることを見つけていきたいです。



成人を祝うついで実行委員 川井 茜音さん

今年20歳を迎える大学2年生。専攻は教育学。コロナが収束したらやりたいことは、海外旅行。